

# 第6学年 国語科学習指導案

2組 計24人(男子11人, 女子13人)

指導者 橋 口 盛 文

- 1 単元 「ものの見方を広げよう」(教材『鳥獣戯画』を読む)光村6年)  
「読み取ったこと, 感じたことを表現しよう」  
(教材「この絵, わたしはこう見る」光村6年)

## 2 目標

- 絵巻物や絵画などに関心をもち, 文章を読んだり, 自分なりに絵などから読み取ったことを伝えたりしようとしている。 【国語への関心・意欲・態度】
- 筆者が何を根拠として考えを述べているかととらえることができる。
- 筆者が自分の立場や専門性, 時代性からどのように考えを述べているのかをとらえたり, その考えの意図と表現の工夫との関連について考えたりすることができる。 【読む能力】
- 絵を見て感じたことや様々な情報を適切に区別したり, 関連付けたりしながら文章に書くことができる。
- 友だちの文章の優れた点, 自分の考えとの共通点・相違点を述べるができる。 【書く能力】
- 文末表現や助詞の使い方などに着目して読み, 語句と語句との関係を理解し, 正しく, 工夫しながら用いることができる。 【言語についての知識・理解・技能】

## 3 単元について

### (1) 単元の価値

本学級の子どもたちは, これまでの学習で, 新聞の記事を比較したり, 見出しや写真から記事の概要を予測する読み方をしたりしてきている。また, 文章の構成をとらえ, 筆者が文章を書いた目的を考える学習もしてきている。このことにより, 文章の主題をとらえたり, 主題を明確にした文章を書いたりすることができるようになってきている。

そこで本単元では, 事実と感想, 意見などの関係を押さえ, 自分の考えを明確にしながら説明的文章を読んだり, 自分の見たものの様子を文章に書いたりすることをねらいとした単元を設定した。

教材『鳥獣戯画』を読むは, 絵と合わせて本文の読みを深めていくなかで, 筆者の見方や感じ方にふれ, この絵の歴史的価値や世界的価値を感じ取ることができるものとする。そして, 文章が読み手へ呼びかける表現になっていることから, 子どもたち一人一人が, 絵の力を使って物語を語る日本の文化の大きな特色を見つめ直すことができる教材である。また, 「この絵, わたしはこう見る」は, 提示された様々な観点を基に分析的に絵画に向き合い, そこから子どもたちがどの点に何を感じ, どのように意味づけたかを意識し, その感じ方やものの見方を表現することが本教材のねらいである。

本単元で, 絵と文章とを対照しながら効果的な読み方を学習することで, 本や文章を比べて読むなどの効果的な読み方を工夫することができる。そして, 目的に応じて文章の内容を押さえ, 要旨をとらえたり, 事実と感想, 意見などの関係を明らかにしたりし, 自分の考えを明確にしながら読むこともできる。また, 分析した事実と自分の意味付けや問いかけを簡潔に説明的に表現することで, 分析的なものの見方や個別の反応の相違, 類似に気付き, 批判的見方や鑑賞力を高めることができる。

ここでの学習は, 筆者の述べていることについて, 自分の体験から例を補って読む「言葉は動く」や自分と本との関わりについて, 文章にまとめる「本は友達」の学習へとつながっていく。

## (2) 子どもの実態

### ア 教科全般に関する実態

本学級の子どもたちは、聞き手に伝わるように音読のできる子どもたちが多く、群読や詩の暗唱など適切な声量で読むことができる。そして、文学的文章や説明的文章ともに叙述に即して読み深める活動が好きである。しかし、個々においては読み取りにやや苦手意識をもっており、課題解決の際には個別の支援の必要な子どももいる。また、解決した内容を自分なりの言葉で相手に伝えようと努力しているが、表現する言葉を選ぶことに戸惑ったり、恥ずかしがったりする子どもたちも見られる。

イ 本単元の内容に関わる実態(調査日 平成23年9月12日 調査人数23人)

① 国語ではどんな学習活動が好きですか。(複数回答)
ア 読む 61%    イ 聞く 20%    ウ 話す 32%    エ 書く 27%
② 発表することは好きですか。
ア 好き 12%    イ あまり好きでない 50%    ウ 嫌い 38%
③ 作文(意見文)を書くときに、どんなことに気をつけていますか。(複数回答)
ア 題名 36%    イ 文章構成 35%    ウ つなぎ言葉 38%    エ 文末表現 9%
オ 書き出し 50%    カ 会話文 2%    キ 引用文 1%    ク 特に気をつけない 2%

子どもたちは、読む活動や一人で考える学習を好んでいるが、その反面、自分の考えを発表したり、友だちと話し合ったりしながら課題解決していくことをやや苦手に行っているようである。理由として、発表する際の不安を挙げていることから、自分なりの言葉で話すことの大切さや発表の際の語彙を補助し、発表する力に自信をつけさせていく必要がある。

また、作文や意見文を書く活動では、相手に分かりやすく伝えるための様々な表現の工夫に取り組んでいる。特に書き出しや文章構成などを意識しているが、説得力ある文章にするための効果的な引用の方法については、これからの学習で指導していきたい。

## 4 指導に当たって(研究との関連)

本単元の指導に当たっては、以下のような点に留意して指導していく。

- 「つかむ」過程では、さまざまな絵、短い文章でまとめられた解説や評論などを紹介し、自由に意見交換をさせることで、人によってさまざまなものの見方や考えがあることに気付かせるようにする。そして、教材文に関する背景について知ること、作品や筆者に対して身近に感じ、興味・関心をもって教材文を読むことができるようにする。
- 「深める」過程では、教材文を読む前見た『鳥獣戯画』に対する自分の考えをもたせておくことで、筆者の着目した点や考えと比較しながら読み進めることができるようにする。そして、自分なりの考えをもって友達と話し合うことにより、絵や文章に対する着目の仕方や新たな考えをつくり上げていくことができるようにする。また、筆者の評価や表現語彙について話し合うことで、筆者の着目の仕方や感じ方、素晴らしさやおもしろさに気付くと共に、文章の書き出しや文末表現など、これからの表現活動に生かせるようにする。
- 「味わう・高める」過程では、単元初め、教室内に物語や小説を紹介する新聞やパンフレット、雑誌などのコーナーを設置しておくことで、筆者の評価が表れている表現を見つけ、話し合う資料を選択できるようにする。そして、教材文での筆者の着目した点や文章の書きぶり、表現語彙などについて話し合ったことを教室内に整理して設営することで、子どもたちが自分の文章を書く際の参考となるようにする。
- 「まとめる・広げる」過程では、自分の選んだ絵についての評論文を書き、互いに読んだり、その内容について話し合ったりすることで、多様な着目した点や感じ方、表現方法があることに気付くことができるようにする。そして、朝の会などで「〇〇の絵・文章、わたしはこう見る」の発表の場を設定することで、学習で学んだものの見方や感じ方、表現技法を生かすことができるようにする。

5 指導計画(全11時間)

は評価項目及び評価方法

過程	時間	主な学習活動	教師の指導
つかむ	2	1 鳥獣戯画の2枚の絵からそれぞれに着目する点を明確にし、読み取ったことや感じたこと、つながりなどについて文章を書く。	○ 「鳥獣戯画」の一場面の絵だけを鑑賞させることで、自由な発想で多様な見方ができるようにする。 ○ 自分の好きな絵や気になっている絵などをクラスの友達に紹介するという言語活動を設定し、学習の計画を立てることで、読みの目的を持たせ、学習の意欲を喚起させるようにする。
		2 学習課題を確認し、学習計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">みんなに「〇〇の絵、わたしはこう見る」を伝えよう。</div>	
深める	4 (本時2/4)	3 文章構成や重要語句をとらえる。	○ 絵巻物や絵画などに関心をもち、文章を読んだり、自分なりに絵などから読み取ったことを伝えたりすることができたか。 (ノート・発表)【国語への関心・意欲・態度】 ○ 段落、文章構成を確かめることで、要旨や筆者の書きぶりの大体をとらえることができるようにする。 ○ 読み取る観点別に色を分けてサイドラインを引くことで、筆者の着目した点や考えをとらえることができるようにする。
		4 絵と文章を照らし合わせながら、絵に書いていることを読み取る。 ・ 絵全体の中で、どの部分を取り上げているか。(どの兎のどの部分か) ・ 取り上げた対象の何に着目しているか。(形、大きさ、色、格好など)(本時) ・ 筆者の表現の工夫を見つけ、その工夫の意図について話し合う。 ・ 要旨をとらえ、筆者の絵や絵巻物に対する評価について自分の考えや感想をまとめる。	
味高めうる	2	5 物語や小説など作品の見所や素晴らしさを伝える文章を読み、筆者の評価が表れている表現を見つけ話し合う。 6 1枚の絵から描写に対する着目と自分の考えを書く。	○ 教材文の文章構成や文末表現などを意識させることで、伝えたいことを明確にした文章を書くことができるようにする。 ○ 「何が」、「どのように」描かれているかという観点で絵を見ることで、自分の考えを明確にすることができるようにする。
ま広げめる	3	7 書いた文章を読み合い、互いに感想を話し合う。 8 自分で選んだ絵を鑑賞し、その文章を書く。 9 「〇〇の絵わたしは、こう見る」の発表・意見交流会をする。	

6 本時 (4 / 111)

(1) 目標 筆者が絵の描き方や絵巻物について、どんな感じ方や評価をしているか、絵と文章を照らし合わせながら読み取ることができる。  
 (2) 展開 ( ) は教師の言葉かけ ( ) は予想される子どもの反応 ( ) は重点評価項目と個別に応じた指導 ☆はICT活用の留意点

課題	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
つ	1 前時までの学習を想起し、本時の学習内容を確かめる。 ( ) 前の時間はどんな学習をしましたか。 ( ) 筆者は「鳥獣戯画」の絵や絵巻物をどのように見たり、感じたりしているだろうか。	○ 文章構成図を提示したり、学習計画表に着目させたりすることで、本時の学習の見通しをもつことができるようにする。
か	2 学習課題を確認する。 ( ) 筆者は「鳥獣戯画」の絵や絵巻物をどのように見たり、感じたりしているだろうか。	○ 筆者は要旨を明確にするために、何を根拠としたかを明らかにし、文章構成図を確かめさせると、本時の学習課題の設定の意味をとらえさせることができるようにする。
む	3 学習の流れをつかむ。 (1) 筆者は絵のどの部分を取り上げ、どこに着目しているか見つけ話し合う。 (2) 絵に対する筆者の評価について話し合う。 (3) 筆者の表現の工夫について話し合う。	○ 『鳥獣戯画』は「国宝の絵巻物」であり、なぜ「漫画の祖」「アニメの祖」といわれるのかという課題をもたせると、筆者の着目した点に気付くことができるようにする。
深	4 本時の学習範囲を音読する。 5 筆者は何を取り上げ、何に着目したかを読み取る。 (1) 「部分」と「着目」に青のサイドラインを引き、その絵の部分にも○印をつける。 (2) 筆者の考え(評価)に赤のサイドラインを引く。 (3) 線を引いた部分について、隣の友だちと確かめ合う。	○ 筆者が絵の描き方や絵巻物について、どんな感じ方や評価をしているか絵と文章を照らし合わせながら読み取ることができると、(ワーキングシート・発表)【読む能力】
め	6 印をつけた絵、サイドラインを引いた言葉や文について話し合う。 ( ) 蛙が兎の耳がぶりとかった。 ( ) たまらず兎は顔をそむけ。	◆ どんな感じ方や評価をしているか読み取れない子ども → 筆者の着目した点に○印をつける活動を支援することで、自力で対応する文を見つけていくようにする。
る	7 筆者の評価について話し合う。 ( ) すごく上手だけど、確かに漫画みたいだ。 ( ) こんな草からやっついているのだ。	☆ 『鳥獣戯画』を初めて見たときの見方や自分の考えと事前にまとめておいたものを提示することで、人それぞれに着目する視点や、同じ着目した点でも感じ方が違ってくることに気付かせるようにする。(比較する)
(20)	8 筆者の表現の工夫について話し合う。 ( ) わたしたちがあま ( ) 使わない表現やおもしろい表現はどこにありますか。 ( ) 本時の学習のまとめをする。 ( ) 筆者は「鳥獣戯画」に対して細かな着眼点をもって、肯定的に素晴らしい芸術作品、楽しい漫画として、高く評価している。	☆ これまで学習した教材文の文末表現を提示することで、比較したり関係付けたりしながら、表現の工夫についてとらえることができるようにする。
味高	9 味高わめうる(12)	○ 筆者の着目の仕方や表現の工夫、表現語彙を振り返りながら、本時の学習をまとめ、また、次時の学習活動で筆者の評価が表れている表現を見つけ、その課題に対して話し合う活動の意欲付けとなるようにする。
ま広	とげとめる(8)	